

平成18年度の輸送実績（速報）

平成19年4月

1. 輸送概況

平成18年度は、前年度に比べ、台風・雪害は少なかったものの、6月から10月にかけての大雨及び11月から3月にかけての風規制などによる輸送障害が各地で発生した。特に、7月13日に発生した羽越線小岩川駅～あつみ温泉駅間での土砂流入災害で、同区間は28日間に亘り不通となり、この間、迂回列車の運転をはじめとして、利用運送事業者と連携した不通区間でのトラックによる代行輸送等を実施し、輸送力の確保に最大限努めた。又、11月27日に発生し、終息までに約1週間を要した機関車故障に起因する武蔵野線の輸送障害は、各線区に多大なる影響を及ぼした。

この反省に立ち、平成19年2月に、首都圏に力点を置いた情報の連絡体制及び運転整理の改善等について、抜本的な「安定輸送対策」を確立し、日々の事業運営の中で確実に実行することとした。なお、年間を通しての列車運休本数は高速貨1,305本、専貨134本となった。

荷動きについては、顧客企業の「改正省エネ法」の施行を受けたモダシフトの取り組みが強化される中、平成18年度グリーン物流パートナーシップ会議のモデル事業として国土交通大臣表彰を受賞したスーパーグリーン・シャトル列車（みどり号）及び自動車部品の専用列車運転開始等による新規増送があったものの、輸送障害が繰り返されたことで、他モードへ一部転移した他、記録的な暖冬の影響等を強く受け、石油が大きく減送となり、年度全体での輸送量は前年比98.6%の3,662万トンにとどまり、全般的には低調な実績となった。

コンテナ貨物では、一部生産中止により減送となった化学薬品の他、生産・物流拠点の変更によりたばこが減送となった食料工業品及びエコ関連物資が前年を下回ったものの、車扱からのコンテナ化等により増送となった紙・パルプ、政府米の出荷が強勢であった農産品、専用列車の運転開始をはじめとして年間を通して出荷が堅調に推移した自動車部品などが前年を上回り、**前年比103.7%の2,318万トン**となったものの、年初計画を下回る実績であった。

車扱貨物では、石灰石、化学薬品などが前年を上回ったものの、原油価格の高騰による燃料転換及び12月から2月にかけての記録的な暖冬の影響を受け、石油の出荷が大幅に落ち込んだ他、一部区間で輸送終了となったセメント及びコンテナ化が進んだ紙・パルプなどが前年を下回り、**前年比91.0%の1,343万トン**となり、年初計画を大幅に下回る結果となった。

2. 輸送実績

(単位：千トン、%)

種別 扱別	平成18年度		前年比
	本年実績	前年実績	
コンテナ	23,184	22,357	103.7%
車扱	13,431	14,761	91.0%
計	36,615	37,118	98.6%

3. 品目別輸送実績表

(単位：千トン、%)

扱別	品目	本年度実績	前年度実績	増減	前年度比
コンテナ	農産品	1,313	1,123	190	116.9%
	生野菜青果物	968	935	33	103.5%
	化学工業品	2,229	2,128	101	104.7%
	化学薬品	1,705	1,759	-54	96.9%
	食料工業品	3,376	3,381	-5	99.9%
	紙・パルプ	3,834	3,618	216	106.0%
	他工業品	1,661	1,569	92	105.9%
	積合せ貨物	2,557	2,515	42	101.7%
	自動車部品	712	632	80	112.7%
	エコ関連物資	407	428	-21	95.1%
	その他	4,417	4,272	145	103.4%
	コンテナ計	23,184	22,357	827	103.7%
車扱	石油	8,605	9,482	-877	90.8%
	セメント	874	1,274	-400	68.6%
	石灰石	749	673	76	111.2%
	車両	1,460	1,549	-89	94.3%
	紙・パルプ	350	481	-131	72.7%
	化学薬品	583	552	31	105.5%
	その他	807	749	58	107.9%
		車扱計	13,431	14,761	-1,330
合計		36,615	37,118	-503	98.6%

(車扱の品目別輸送量は社線発送トン数も含む数値、本年度は速報値、前年度は確報値)